

2021/10/4

(オマケの英語教室 picture ) 書庫版



当店の壁には絵や写真が飾ってあります。

ひまわりの絵で、子供の水彩画をネットからダウンロード、プリントアウトした物を額に入れて飾りました。

今一つはヒマラヤだけに咲く青いケシの写真です。写真家で青いケシ撮影専門の方から譲り受けて飾った物です。

ところで絵は英語で picture。

絵だけではなく写真も自分が高校時代には今の様に photo と云わずに picture と言っておりました。

例えば「写真を撮る」の英訳なら

Take a picture でした。

そこで、本日はお店の定休日と云う事もあって

「何故絵や写真の事を picture というのか？」

を暇に任せて考えてみました。

まず picture の語幹が -pict であった場合について。

自分が知っている範囲の知識では -pict はコンピュータ画像形式の一種である事位ですがこれは如何にも

「画像形式と言う事で picture から逆に簡略化して名付けられたもの」である気がしたのでまず除外しました。

次に更に短縮化して -pic であった場合についても自分の知っている範囲の知識内で考えて

みました。

ですが是も英語とか米語の俗語（スラング）で pic は絵や写真の事なのですが、これ又如何にも picture の短縮形である事が見え見えなので除外。

他には person in charge の頭文字 p, i, c を取った略語で「担当者」を表す事がありますが、是は全くのお門違いそうなので是又除外。

となると一体何から picture と付いたのか？

それで暫く悩んだ末、以下の仮説を立てました。

曰く

「Pick up（ピックアップする＝拾い上げる）から来ているのではないか？」

と。

どういう事かと云えば、pick には元々「選んで取り上げる」という意味やイメージがあるので

「周囲の中から素材を選んで取り上げて描いたり画像にしたりした物」

を pick(up)するもの(-ture)で picture と言う様になったのではないかと云う事です。

ですが此処で申し上げたいのは実はこの仮説の正否では全くなく、本意は

「英単語の語幹を元にその原義を色々考えてみるとイメージ（英訳は image:将に画（picture）像）が拡がって楽しみながら単語を連鎖的に覚えられる」

そして、それにも増してお伝えしたいのが

「英語（単語）というのは（唯一無二の明確な意味）を表すのではなく（むしろ「的確」雁字搦めを避け臨機応変拡大解釈可能なイメージ素材）の提供である」

と言う事。

我が国では教える側が鼻から「日英正対称（100:100）」の逐語訳でなくてはならないと思いつ込んでいますが実は「日英非対称（例 100:20）」が実態。

「英語を訳する際に細部に迄適語分化した言語である日本語を使って正確に訳すのは良い」が、

「逆にその日本語を正確無比に逐語英訳しようとするとなイティブさえ初耳のとんでもなくレアな単語迄覚えなくてはならなくなり英語の本質を逃すと共に英語学習で進む方向を誤ってしまい、その学習量で学生を辟易させてしまう」

なら是正策として

「頻度の高い単語に絞ってその原義やイメージをしっかりと抑え、場面に応じて使い回した方が英語の本質にも適し学習効率上も得策」

と言うのが自分の感想で御座います。